

第50回「Face to Faceの会」たより

演題 I

『病診連携による相乗効果の高め方』



乳腺外科

診療科部長 柏木 伸一郎

乳がんは世界で最も罹患される方の多いがんになります。しかしながら、適切な治療により「救うことができる命の多いがん」でもあります。私たちは、科学的妥当性や合理性に基づいた適切な治療を提供しています。

大阪公大病院では、乳がん診療に関わるすべての診療科が力を合わせ「乳がん診療チーム」を結成し、関西トップクラスの診療実績をもって『難治性乳がんの克服』を目指しています。「トリプルネガティブ乳がん」や「転移・再発乳がん」など、治療が難しいとされる乳がんの診療拠点となっています。

がん診療拠点病院として、かかりつけ医の先生方とともにがん診療に取り組むべく、積極的に病診連携を実践させていただいています。病診連携の実績は1300件となり、病診連携により相乗効果が高まるよう努めております。『術後連携パスの徹底』『乳腺診療連携ホットラインの設置』『パートナーシップクリニックの依頼』などを実践し、よりよい病診連携を目指しています。

「優しく頼れる乳腺外科医」として、乳がんで苦しむ患者さんを救いたいという気持ちを胸にチーム一丸となり鋭意努力を重ねていきたいと思っております。地域かかりつけ医の先生方と手を取り合い、地域医療の充実に注力していきたいと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。

大阪府乳がん術後連携パス

毎月の通院にて患者さんの状態を確認

- 全身状態の確認
- 視触診
- 採血、超音波検査
- 術後ホルモン剤を処方

かかりつけ医

手術

術後補助内分泌療法 5年～10年

※ 退院から30日以内に

- 地域連携パスの説明同意
- 連携医療機関のコーディネート
- 必要書類の送付(診療情報提供書)

乳がん術後地域連携パス 1300件の実績

大阪公大病院

がん治療連携指導料 300点 (パス報告時、月1回限り算定)

がん治療連携計画策定料 750点(退院時、1回限り算定)

半年から1年毎の精査 (超音波検査、マンモグラフィ、CTなど)

Osaka Metropolitan University Graduate School of Medicine

Breast Surgical Oncology, OMU
大阪公立大学大学院 乳腺外科学

今後とも当院との
良好な病診連携を
どうぞよろしくお願いいたします!

演題Ⅱ

『神経精神科の取り組み:その変遷と対応』



神経精神科 診療科部長 井上 幸紀

平素より大阪公立大学神経精神科がお世話になりありがとうございます。

情報化社会の到来など大きく社会環境が変化する中、メンタルヘルス不調者は増え、当科の診療対象疾患は広がり、治療法も変わってきております(図1)。当大学病院が大阪市内唯一でかつ交通至便ということもあり、特に若い方や就労者の受診が多いことも当科の特徴といえます。気分障害、統合失調症、不安症なども従来通り診察していますが、最近は児童思春期の発達障害、摂食障害、働いている方の気分障害・適応障害・身体症状症、認知症などの受診が増えています(図2)。そのため、児童思春期の精神障害、摂食障害、認知症などの疾患と、気分障害を中心とした産業精神医学という領域に専門性を集約しながらも、入院・外来を含めて全ての心の問題に丁寧に対応するよう心がけております。

最先端のAIを使ったさまざまな診療や研究の取り組み(スマホを使用した摂食障害への介入等)も行っており、その一部がメディアで特集されることもあります。特に児童思春期や摂食障害の患者様から多くのお問合せをいただいており、その分野の体制強化を目指しておりますが、患者様をお待たせするなどのご迷惑をおかけしないよう事前にお問い合わせ(外来06-6645-2331,平日 14-16時)をいただければ幸いです。今後も関連機関の皆様と連携させていただきながら地域医療の充実に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

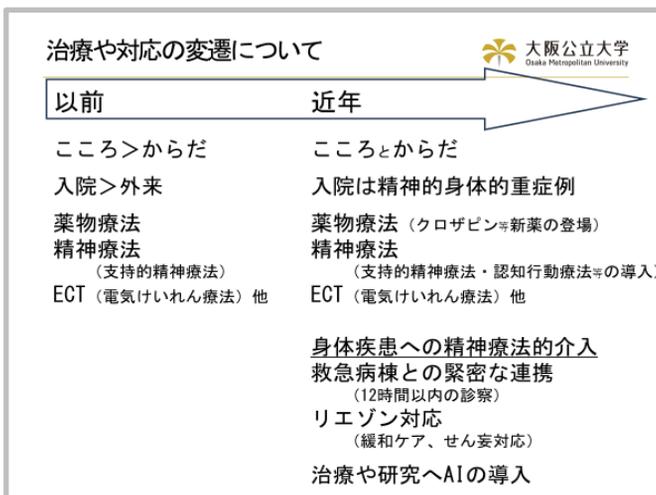


図 1

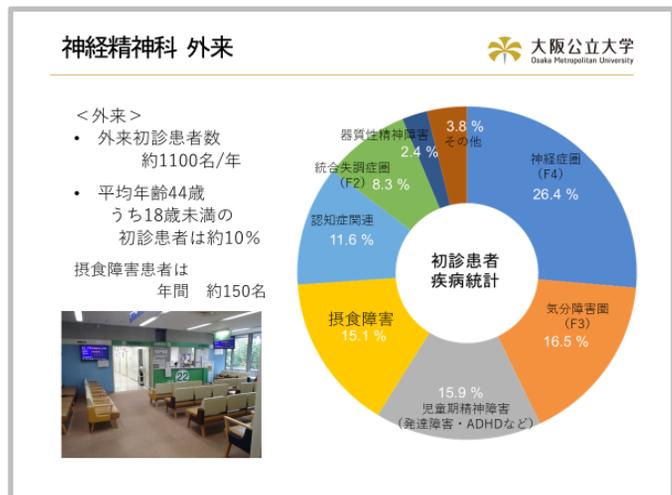


図 2

次回開催のお知らせ Face to Faceの会

日 時: 令和6年3月16日(土) 16:00~17:30
場 所: あべのハルカス25階 貸会議室

発 行: 大阪公立大学医学部附属病院「Face to Faceの会」
文 責: 患者総合支援センター長 角 俊幸(世話人代表)
連絡先: 06-6645-2857(患者支援課)